

トダセスジゲンゴロウ *Copelatus nakamurai* Guéorguiev

【選定理由】

河川の伏流水が湧き出してつくる水溜りのような不安定な水域に生息する種で、国内でも局地的にしか分布しない生息基盤が脆弱な種である。県内では、庄内川のみから確認されていたが、河川改修などによる治水対策によって、生活場所である氾濫源湿地が減り、最近の生息情報が途絶えている。

【形態】

体長 4~4.5mm。体は長楕円形で扁平。背面は暗赤褐色で前頭、前胸両側は淡色となる。上翅は第1~2間室と第4~第7間室は黒色となるが両端には達しなく、7条溝と1亜外縁溝を有し、間室は細点刻を装い光沢がある。体下面は橙褐色。

【分布の概要】

【県内の分布】

庄内川中流域（春日井市、名古屋市）のみから記録されている。2010年には名古屋市内の庄内川で多くの個体が確認された（田島他、2011）。

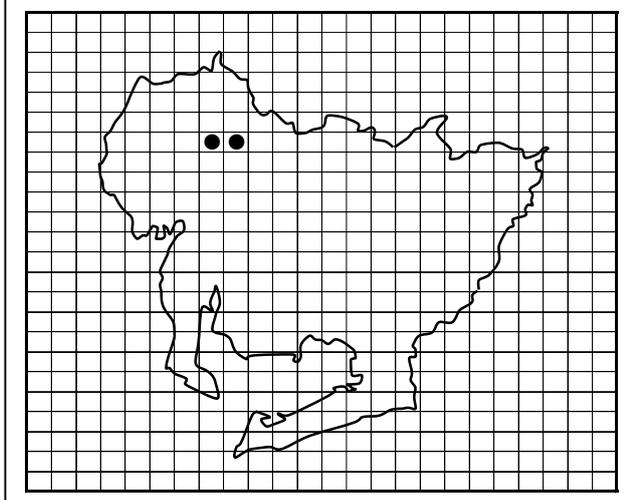
【国内の分布】

本州。

【世界の分布】

日本の特産種。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

河川敷で伏流水が湧き出でできた水溜りのような不安定な水域に生息し、ヨシ・オギの高茎草本群落が生い茂った暗い環境を好む傾向がある。干上がっているときは泥の割れ目等で見つかることがある。生息環境が不安定であるため、発見が難しく、実際にはランクより危急な状態にある可能性がある。

【現在の生息状況／減少の要因】

田島・柳田（2010）は、本種の生息を脅かす要因として、水質悪化、乾燥化、環境消失、採集圧、外来種の影響について挙げている。

【保全上の留意点】

農薬の流入防止対策と現在の高茎草本群落の面積の積極的な維持が必要である。高茎草本群落の面積減少は生息地の直接的な破壊につながる。

【引用文献】

- 田島文忠・寺西 司・長谷川道明, 2011. 名古屋市における絶滅危惧種トダセスジゲンゴロウの確認事例と生息環境. SAYABANE New Series, (1): 8-11.  
田島文忠・柳田紀行, 2010. 利根川中流域における希少種トダセスジゲンゴロウの生息環境と生活史. ホシザキグリーン財団研究報告, (13): 215-226.

【関連文献】

- Satô, M., 1988. A new species of the Dytiscid genus *Copelatus* (Coleoptera) from Japan. *Elytra*, 16 (2): 123-125.  
北山 昭ほか, 1993. 日本のゲンゴロウ: 115. 文一総合出版.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)